

「地域社会における脱炭素への取り組み」現場から見える未来

チーム名：ブラボー5

リーダー：高坂明

メンバー：赤穂谷憲一、隅田毅、西本一郎、溝田みどり

昨今、世界各地で巨大台風、集中豪雨、旱魃、熱波・猛暑に起因する山火事発生、氷河・氷床融解およびそれに伴う海面上昇等地球温暖化による影響が出てきています。地球温暖化は大気中にある CO₂、メタン、フロン等の温室効果ガスが増えすぎ、宇宙に逃げるべき熱が地表に留まりすぎることによって気温が上昇し、地球全体の気候が変化することです。従って温暖化の進行を食い止めるためには、温室効果ガスの排出量を減少させ最終的に実質ゼロ（カーボンニュートラル）を目指していくことが不可欠で、国際社会も協力して様々な対策を計画しています。このような状況下で、当班はカーボンニュートラル社会の実現に向けて、CO₂ を発生しない再生可能エネルギーによる発電を如何に効率的・効果的に活用するかという観点から、兵庫県下各自治体、団体、企業等が脱炭素に向けた施策や活動をどの様に計画し実施展開しているのか、現状どのような課題があり、どの様に対処しようとしているのかを、現場活動事例に直接接し調査（FW：フィールドワーク）しました。調査先として、脱炭素に向けて積極的な計画立案や行動実践、及びユニークな取り組みをしていると思われる自治体 6、団体 2、企業 2、個人 1 の計 11 か所を選定しました。



FW 結果から、エネルギー消費を最小化する「省エネ」、再生可能エネルギーを活用する「創エネ」、効果的に蓄電する「蓄エネ」により電力を地産地消化していくことが脱炭素に向けての目指すべき方向であるとの結論に至りました。また、電力の地産地消が地域社会に及ぼすメリットを活用すれば地域活性化に繋がる可能性も大きく、この意味からも電力の地産地消を進めることは重要です。

FW でお会いした各現場で必死に頑張っている熱き思いを持った人々をみるにつけ、情熱、使命感、郷土愛に裏付けされた強い意志と力があれば脱炭素は必ず達成できるとの思いを強くしました。